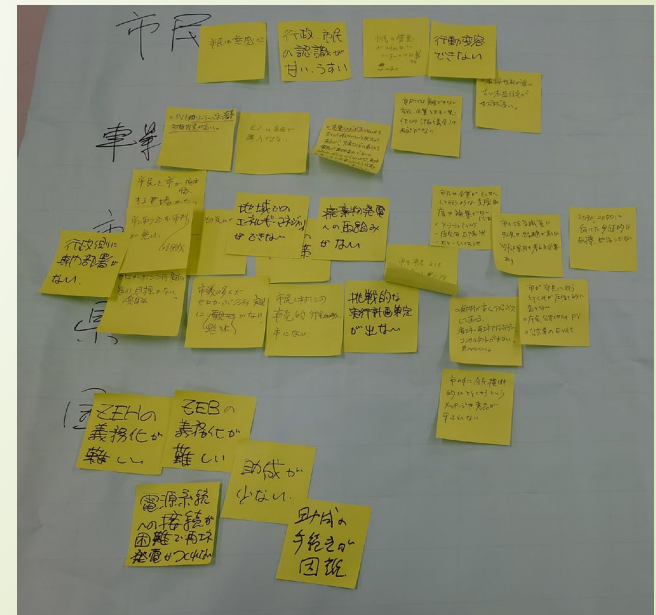


やちよ自然エネルギー市民協議会 やちエネ第5回みんなで考える会 「ゼロカーボンシティをどのように実現するか」 ワークショップ

2023年3月19日



第5回みんなで考える会「ゼロカーボンシティをどのように実現するか」ワークショップ

2グループ(会場、オンライン)に分かれて、ゼロカーボンシティを実現するための課題を考えました。

誰が(Who)	課題
市民	無関心、認識がうすい、賛意が得られない、行動変容ができない、EVが高価で購入できない、省エネ性能が低い木造住宅がまだ多い、市民が率先して行うような支援制度や施策がない(住宅用太陽光、EVなど)
事業者	PV設置の初期費用が高い、EVが高価で購入できない、充電スタンドが足りない、充電スタンドに送られる電気が再エネではない、市民・企業を巻き込む仕組み(協議会)が無い、企業が率先して行うための支援制度や施策がない(ソーラーシェアリング、EV・蓄電池など)
市(行政)	市民と市が協働する場が無い、市に取り組む体制・組織が無い、行政側に専門部署がない、地域でのエネルギーマネジメントが出来ない、ゼロカーボンシティ実現のための具体的な目標が無い、率先的行動や取組(庁舎、公共施設のPV、公用車のEV化など)、が圧倒的に少ない、廃棄物発電の取組がない、挑戦的な実行計画策定が出来ない、無料でアドバイスする省エネ・再エネアドバイザーやコンサルタントが少ない(見つけにくい)、担当職員に知見や経験が少ない(外部登用を考える必要)、2030年や2050年に向けた具体的な目標がない、市の中に全庁横断的に取り組むという意思がない
市(市議会)	市議会の大多数がゼロカーボンシティの実現に興味がない
国	ZEHやZEBの義務化が難しい、電源系統への接続が困難で再エネ発電設備が導入できない、助成が少ない、助成の手続きが困難

第5回みんなで考える会「ゼロカーボンシティをどのように実現するか」ワークショップ

会場 2グループ(会場、オンライン)に分かれて、ゼロカーボンシティを実現するための方法を考えました。

誰が(Who)	いつ頃(When)	どこで(Where)	何を(What)	方法(How)どのように
市民	すぐ	市議会	情報提供	市議会に対して市民団体がゼロカーボンシティに関する情報提供
市民	2025年	市内	税制優遇	市民の行動変容に対するポイント制
市民・事業者	すぐ	市内	協議会	市、企業、市民との協議会を設置、地区毎の協議会→合同会議
行政・事業者	2025年	市内	PPA	長期契約が出来るようにする
行政	2023年	市内	目標	ゼロカーボンシティ実現計画の目標を策定する
行政	2023年	市役所	専門部署	率先行動をする、積極的な推進姿勢を見せる
行政	2023年	市役所	専門家	専門家を登用して推進する
行政	2025年	市庁舎	ZEB化	Nearly ZEB&500kWソーラー実現
事業者・行政	2025年	農地	太陽光	ソーラーシェアリングのパイロットモデルを作る、支援制度を作る
行政	2025年	市内の住宅	太陽光	住宅用太陽光の設置義務化(東京都など)
行政	2025年	市内の住宅・建築物	ZEH/ZEB化	国の助成制度などによりZEH/ZEB化を普及する
行政	2030年	市内の学校	太陽光	全学校にPPAで太陽光を設置、使っていないプールなど
行政	2030年	市内	自転車	もっと利用されるように自転車道を整備する
行政	2030年	市内の住宅・建築物	省エネ	断熱改修などの助成制度を創設(補助率を高く)
行政	2030年	市内	EV	再エネ比率の高い充電スタンドを増やす(助成制度)

第5回みんなで考える会「ゼロカーボンシティをどのように実現するか」ワークショップ

オンライン

2グループ(会場、オンライン)に分かれて、ゼロカーボンシティを実現するための方法を考えました。

市庁舎・公共施設ZEB化

誰が(Who)	いつ頃までに(When)	どこで(Where)	何を(What)	方法(How)どのように
市	早急	市庁舎・公共施設	ゼロカーボン推進計画等	担当部署が不明確、市民の意見を聞く体制づくりが必要。 業務関連の簡素化、デジタル化で運輸も含めての省エネが可能
市	2026年	市庁舎敷地	市庁舎	『ZEB』する
市・民間	2026年	市庁舎及び周辺	電力	断熱、効率化、蓄電、省エネでどこまでできるか、小さくしても創エネ等でまかなえない電気を周辺敷地も活用して発電して利用する。
市	2030年	小中学校の校舎	太陽光発電	屋根面に設置する改修
市	2030年	公共駐車場	太陽光発電	ソーラーポート化する
市・市民	2030	学校	太陽光発電	全校にパネルをのせる、クラウドファンディング等を活用して、市民全員でもりあげていく
市・市民	2030	公共施設	4パーミル	バラや剪定枝を燃やさずに炭化してそれを土壌に返してカーボン循環
市・市民団体	2030	公共施設他	CO2発生量データ	現状のCO2消費量の把握・分析
市・市民	2030	市庁舎・公共施設等	廃棄物	ペーパーレス化
市	2030	既設公共施設	改修	LED化

第5回みんなで考える会「ゼロカーボンシティをどのように実現するか」ワークショップ

オンライン

2グループ(会場、オンライン)に分かれて、ゼロカーボンシティを実現するための方法を考えました。

ソーラーシェアリング・住宅用太陽光ほか

誰が(Who)	いつ頃までに(When)	どこで(Where)	何を(What)	方法(How)どのように
自治体	2030年	農地	もみ殻2000t/年、稲わらを炭化 →自治体ゼロカーボンに繋がる	農産物、杉、竹等の使われていない部分を発電に使うか炭化して地中に戻す。炭素循環。農業からの温室効果ガス
農業法人 (市民)	2030年	耕作放棄地 (141ha)	ソーラーシェアリング	電気の使い方？自家消費？売電？
行政	2030年	市内農地	ソーラーシェアリング	事業者洗出、資金紹介、事業者マッチング
行政	可能な時期	市内の住宅	既存戸建て所有者。注文住宅等	初期投資軽減の設置、設置によるメリットの理解を行政等の広報を利用し相談窓口設置も設ける。
市	2030年	住宅	太陽光パネル設置+蓄電池（新築は義務化）	国・市の補助金を用い指定業者が施工；電気使用料で償却
グループ (NPOなど)	ここ数年内	市内または千葉県全体	0円ソーラーの仕組み	長野県の「あいのりくん」のように、出資者と屋根を貸してくれる人をつないで太陽光発電設備を設置する（すでにあつたらすみません）
千葉県	2024年まで	千葉県内	PV設置義務化	ハウスメーカーへの太陽光発電設備設置義務化（条例等）参考：東京都
国	即日	全国	電力単価のピーク/シーズに合わせた変動化(kW対策)	地域の発電(シーズ)に合わせて、電力単価を変動にして、見える化すれば、電力単価の高い時に電力消費が抑えられ、安価の時に多く使うようになる。 (太陽光発電が無駄にならなくなる)
行政	2030年	市内	EVインフラ	補助金制度